

令和4年度 後期 学校評価アンケート（分析及び対策）No. 1

学校教育目標（重点的取組）	各項目		目指す姿	N0	対象	質問項目	前期	後期	1年	2年	3年	
Ⅰ「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた、主体的・対話的で深い学びの実現	個別最適な学び	主体的・対話的で深い学び	一人一人が学習進度や能力、関心等に応じて、学習を進めていくことができる	1	教職員	生徒一人一人のやる気を向上させるための声かけや長所をほめるなどの「動機付け」を行っている	100%	88%				
					生徒	自信につながるようなよいところを発見することができた	93%	95%	97%	92%	94%	
					保護者	お子さんは、自信を持って取り組んでいる	87%	86%	88%	80%	91%	
				2	教職員	生徒が目的を持ち、学習に取り組めるよう個に応じた指導を行っている	93%	94%				
					生徒	目的に合った計画を立て実行できている	95%	93%	96%	94%	91%	
					保護者	お子さんは、目標を持って学習に取り組んでいる	86%	84%	87%	74%	91%	
				3	教職員	つまずきや困りを克服するための適切な支援を行っている	74%	87%				
					生徒	授業でわからないところを、自分に合った方法で解決しようとしている	97%	96%	98%	94%	95%	
					保護者	お子さんは、学習でつまずきのあるところを、自分に合った方法で解決しようとしている	77%	79%	81%	74%	82%	
				4	教職員	授業では「めあて・振り返り」、「課題・まとめ」を提示しながら、生徒の主体性を育む授業を行っている	86%	88%				
					生徒	授業では、1時間の「めあて」が達成できたかを振り返り、次の学習につなげようとしている	92%	95%	95%	94%	96%	
					生徒	授業では、解決したい課題を見つけ、解決に向け、見通しを持ち学習している	95%	95%	95%	94%	96%	
	協働的な学び			多様な人々と協働しながら、よりよい学びを生み出すことができる	5	教職員	生徒同士の異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出すよう工夫している	93%	82%			
						生徒	授業では、自分の考えを深めたり、広げたりするために、自分の意見を伝えたり、他者の話を聞いたりして交流している	94%	96%	95%	98%	96%
						保護者	お子さんは、他者の話を聞き、自分の考えに生かすことができている	91%	87%	86%	85%	89%
					6	教職員	生徒の主体性や協調性を育むため、多様な人々と協働する機会を設定している	80%	94%			
						生徒	授業や学校行事等で多様な人々と協働することを通して、主体性や協調性が身についてきた	95%	96%	95%	97%	95%
						保護者	お子さんは、主体性や協調性が身についてきた	91%	90%	92%	86%	92%
	ICTの活用			ICT端末等を効果的に活用することができる	7	教職員	授業において、ICT端末等を活用する機会を積極的に設けている	87%	88%			
						生徒	ICT端末等を積極的に活用して学習などに取り組んでいる	97%	98%	99%	98%	96%
						保護者	お子さんは、ICT端末等を積極的に活用して学習などに取り組んでいる	90%	91%	92%	92%	89%
					8	教職員	生徒は、ICT端末を正しく使っている	100%	81%			
						生徒	ICT端末を正しく使っている	98%	97%	98%	97%	94%
						保護者	お子さんは、ICT端末を正しく使っている	93%	91%	95%	89%	90%

【分析及び対策】

生徒…3つの項目すべてにおいて肯定的回答が概ね95%を超えており、学習に前向きに取り組んでいる。来年度に向けて取組指標を生徒と教職員で作成し、目指す姿の共有を推進する必要がある。また肯定的な回答をしていない少数の生徒に目を向けて学習支援を行う必要がある。

保護者…協働的な学びおよびICTの活用の項目における肯定的な回答は90%程度であり、全体としてはおおむね満足な状況と判断できる。個別最適な学びに関する項目における肯定的な回答の割合は生徒と保護者で差が見られる。とくに質問③「学習につまずきの…」ではかなり離れており、生徒自身の取組に満足できていないようである。（1年：－17％，2年：－20％，3年：－13％）学校に対する要望であると考え取り組む必要がある。通信等で伝えられる全体の様子に比べ、生徒一人一人の個別の様子が家庭に伝わりにくい現状を踏まえ機会を見つけ、保護者と連携を取り合う機会を模索する必要がある。

教職員…前期の課題としてあげられた質問③が+13%となり、生徒のつまずきや困りに対する適切な支援に取り組もうと力を注いでいることがわかる。一方質問①が－12％，質問⑤が－11％と肯定的な回答が減っている。学習課題を意識させるための授業を行うため、「動機付け」につながる発問作りの準備がさらに必要である。また、授業でじっくり考えたり、意見をすり合わせたりする対話的な場面がとれていないと感じている授業者がいると予想される。授業改善や教材研究の時間を確保するために、学校の活動全般の計画的な準備や早めの提案を心がけて、授業に時間をかけることができる環境づくりを目指さなければならない。また、本校の目指す個別最適な学びについての共有が不十分であり来年度に引き継ぐ課題である。

質問⑧「ICT端末を…」が低くなっているのは、端末の使用が普通になり、活用の在り方について生徒と考える場面を増やしてきたこともあり、問題意識が芽生えていることだと考える。

令和4年度 後期 学校評価アンケート（分析及び対策）No.2

学校教育目標(重点的取組)	各項目	目指す姿	N0	対象	質問項目	前期	後期	1年	2年	3年		
Ⅱ 自主的・主体的・創造的な取り組みを引き出す生徒会活動等，魅力的な教育活動の展開	生徒会活動	自ら生徒会活動・学級活動等に取り組むことができる	1	教職員	生徒に学校教育目標達成のため，「6期ステップ」（各期）の目標を意識して取り組ませている	87%	76%					
				生徒	学校教育目標達成のため，「6期ステップ」の目標を意識して取り組めている	92%	93%	95%	91%	93%		
			2	教職員	生徒は，生徒会，委員会，クラスの係活動に積極的に取り組んでいる	80%	81%					
				生徒	生徒会，委員会，クラスの係活動にリーダーシップやフォロワーシップを発揮して活動している	85%	89%	91%	86%	91%		
				保護者	お子さんは，生徒会，委員会，クラスの係活動に自主的に取り組んでいる	87%	88%	88%	84%	92%		
			3	教職員	生徒は，学校行事（体育大会，青垣祭等）に積極的に取り組んでいる	93%	94%					
				生徒	学校行事（体育大会，青垣祭等）に積極的に取り組んでいる	96%	96%	98%	93%	96%		
				保護者	お子さんは，学校行事（体育大会，青垣祭等）に積極的に取り組んでいる	90%	93%	94%	91%	94%		
			総合的な学習の時間	自ら課題を見付け，自己の生き方を考えることができる	4	教職員	総合的な学習の時間では，生徒に課題を設定する場を設けている	87%	88%			
						生徒	総合的な学習の時間は，自分たちで課題を設定して学習している	89%	92%	91%	93%	92%
	5	教職員			調べたことを資料化や文章化させたり，話の組み立てを工夫させたりしている	80%	88%					
		生徒			自分たちで調べたことを，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表できた	91%	96%	95%	96%	96%		
	【分析及び対策】											
	質問①「6期ステップ」の項目については，生徒の肯定的回答が前期は92％，後期は93％と昨年度に比べ高い評価となっている。これは，今年度より特設学活を設け，「6期ステップ」を意識した取組を1年間行ってきた成果であるとする。しかし，教職員と生徒との意識に17％の差異がある。教職員は76％であることから，今後さらに共通理解を図っていく（意義を再確認する）必要があるとともに，毎週行っている生徒会委員会での内容事項等を教職員間でしっかりと情報共有していく。質問②「生徒会，委員会，クラス諸活動」の項目については，前期に比べ数値が数パーセント上昇しているが，自主性・主体性を持った生徒会活動を行わせるための基盤として，様々な行事や諸活動について，各リーダーに自ら考えさせるための時間の確保が必要である。今後，自主的・主体的な生徒会活動ができるような計画性を持った運営を推進していきたい。質問③「学校行事(青垣祭等)」の項目については，教職員・生徒・保護者の肯定的回答が90％を超えている。特に11月に行われた青垣祭では，生徒が主体となり積極的に取り組み，クラスの絆が深まり仲間意識も高まった。この行事で身に付けた「自治力や仲間意識」を日常生活の中で生かせるような活動に繋げていきたい。質問④「総合的な学習の時間」の項目については，生徒の肯定的回答は＋3％となっている。特に2年生では「課題を設定する場」を修学旅行に結び付けた取組が成果として表れている。また，1年生では職業観意識，3年生では青垣祭を通じて課題意識を持った動画制作が成果の要因であるとする。今後も年間を見通し，課題意識を持った取組を行っていききたい。質問⑤「調べたことを工夫する」項目については，前期に比べ教職員・生徒の肯定的回答が＋5％以上となっており，今後も引き続き「資料化・文章化・話の組み立ての工夫」をした授業改善を模索していきたい。											

令和4年度 後期 学校評価アンケート（分析及び対策）No.3

学校教育目標(重点的取組)	各項目	目指す姿	N0	対象	質問項目	前期	後期	1年	2年	3年		
Ⅲ 心と命を守る日々の教育活動の充実と組織的な推進	生活指導	基本的生活習慣を身につけ、自ら考えて行動することができる	1	教職員	生徒は、規則正しい生活を送ることができている	80%	76%					
				生徒	規則正しい生活を送ることができている	83%	87%	89%	84%	89%		
				保護者	お子さんは、規則正しい生活を送ることができている	83%	84%	86%	79%	88%		
			2	教職員	生徒は、進んであいさつすることができている	66%	57%					
				生徒	自分から進んであいさつすることができている	95%	95%	95%	94%	97%		
				保護者	お子さんは、進んであいさつすることができている	90%	87%	88%	86%	86%		
			3	教職員	生徒は、進んで清掃に取り組んでいる	80%	75%					
				生徒	自分から進んで清掃に取り組んでいる	98%	96%	96%	95%	96%		
			心と命の教育	自分も他の人も大切に、仲間同士で支え合うことができる	4	教職員	生徒は、自尊感情が高いと思う	80%	76%			
						生徒	自分にはよいところがあると思う	80%	85%	85%	83%	87%
						保護者	お子さんの自尊感情は高い方だと思う	87%	82%	75%	83%	88%
					5	教職員	生徒の悩みや相談に親身に応じている	86%	94%			
	生徒	先生は、あなたの悩みや相談に親身に応じてくれる				93%	93%	95%	91%	92%		
	保護者	先生は、お子さんの悩みや相談に親身に応じてくれる				84%	89%	86%	89%	93%		
	6	教職員			学級は、他の人の思いや考えを尊重する雰囲気になっている	87%	82%					
		生徒			学級は、他の人の思いや考えを尊重する雰囲気になっている	91%	93%	95%	87%	97%		
		保護者			お子さんの学級は、生徒の思いや考えを尊重する雰囲気がある	95%	93%	95%	91%	94%		
	7	教職員			いじめのない学校・学級づくりに努めることができている	100%	94%					
		生徒			いじめのない学校・学級づくりができていると感じる	96%	94%	97%	90%	96%		
		保護者			いじめのない学校・学級づくりができていると感じる	94%	93%	92%	91%	95%		
8	生徒	授業以外で部活動や家庭等での体力づくりができている	79%	81%	87%	84%	72%					
	保護者	お子さんは部活動や家庭等で体力づくりをしている	69%	73%	81%	71%	66%					

【分析及び対策】

質問①については教職員が-4%となっている。手帳の記述内容や登校状況から判断し、就寝時間や登校時間の変化があったと考えられる。インターネットや課題などで就寝時間が遅くなっている生徒も自由記述欄から読み取れるので、担任による声掛けや各教科で課題のバランスを考える必要がある。質問②についても教職員は-9%と大きく下がっている。生徒会生活委員会を中心に進んであいさつができるような活動を行ったが、徹底して行うことができなかった。コロナ禍の中でできることを考え、生徒自身にあいさつをする意味を見いださせる必要があると考える。質問③も同様。教職員と生徒で数値の差もあり、教職員のみパーセントが下がっている。質問②と質問③については来年度の生徒会の重点項目とし手立てを考えていく。質問④については生徒は+5%となっているが保護者のパーセントは下がっている。特に1年生の保護者の数値が低い。思春期に入り始め、家庭での様子に変化があるのではないか。子どもの様子の変化に不安を感じている保護者もいると推察できるので担任などが家庭と連絡を取ったり、通信などで学校の様子を知らせたりと手立てを取っていく必要がある。また、家庭でも子どもとの対話を増やす時間が大切であるとする。質問⑤については前期に比べ改善されており、日頃から担任などが生徒に寄り添っている成果だと考えられる。質問⑥については生徒が+2%となっている。例年よりも高い数値になっており、今年度より始めた人間関係作りプログラムの成果だと考えられる。来年度以降もブラッシュアップをしながら継続して行っていきたい。質問⑦については三者でパーセントが微減となっている。教職員については常に100%であるべきなのだが、いじめゼロにはいたっていないのが一因であるとする。職員研修などを通じていじめを絶対に許さない意識作りをしていく必要がある。質問⑥⑦で2年生のパーセントが低く、前期と比較しても質問⑥-5%、質問⑦-6%となっている。SNSなど教職員の見えないところでの生徒の人間関係の変化や生徒観のパワーバランスの変化があるのではないかと考える。この結果に注視して生徒の様子を冷静に見取り、指導していく必要がある。質問⑧については例年本項目は本校の大きな課題となっている上、コロナ禍で外出が制限されることも一因であるといえる。特に部活動引退後の第3学年の数値が大幅に悪化している。進路実現のためにも健康管理は必要であるので、体力づくりも大切にしたい指導を心掛けたい。

令和4年度 後期学校評価アンケート(自由記述)

☐肯定的内容と、☐意見・要望の一部回答を載せています。

【生徒】

☐青垣祭などを通してクラスの良いところを見つけることができたと思います。

☐目標達成に向けて行動できました。これから受験があるので勉強を頑張りたいです。

☐生徒会の委員会で特別活動などをしっかり意識して行うことができました。

☐前期よりも挨拶の意識が高まったと思います。

☐もっと生徒会活動を活発化したほうが良いと思います。現状は、あまり活発な活動ができていないと感じます。生徒たちが主体となって作り上げるのが生徒会活動であると思います。

⇒生徒のアイデアを随所に取り入れ、生徒会活動をもっと生徒自らの手で創り上げるような企画・運営を計画的に行っていきたいと思います。

【保護者】

☐コロナで制限がある中、行事等を工夫しながら実施してくださり、感謝です。お陰でよい学びができ、成長へと繋がっているように思います。ありがとうございます。

☐多感なこの時期に「学校が楽しい。クラスが楽しい。部活が終わって残念。」と言う子どもの言葉を聞いて、日々の先生方の取組やご支援に感謝の気持ちでいっぱいです。学校通信もいつも楽しみに読ませて頂いております。ありがとうございます。

☐いつもお世話になっております。子どもが悩んだ時期、先生に相談したところ、気持ちに寄り添い一緒に解決方法を探してくれたと聞きました。ありがとうございました。学習面も、わからない時は先生方がしっかり教えてくれて、授業も探究心が刺激されて楽しいそうです。これからもよろしくお願い致します。

☐いじめアンケートで、隠れたいじめや、雰囲気悪さを早期に発見して対策してほしいです。

⇒意図的にコミュニケーション活動の場を仕組んだ取組として、毎週金曜日の15分延長帰学活で、人間関係プログラム(Relationship Day)R Dayを行っています。そこで、自分の思いや考えを伝え合う活動を通して、お互いを認め合う雰囲気作りに努め継続的に行っていきます。また、教育相談を年3回行っていますが、3回目は全教職員で学年関係なく組織的な教育相談体制で取り組んでいます。さらに、いじめアンケートや学校評価アンケートを定期的に行い、いじめの早期発見や防止に努め、学年部・生徒指導部を中心に取り組んでいます。

☐今日のPTAでも議題になったSNSトラブルの話を知ると、末恐ろしくなりました。規則を破りたいお年頃ではありますが、物理的なトラブルでは済まない世の中になっているな、と。学校でのご指導だけでは管理できない面だと思っておりますので、親自身がお手本となれるように気を付けたいと思いました。

⇒全国的にも問題になっていますが、SNSの使い方を考えてもらうために、情報モラル講演会を開催しました。使用禁止というのは、時代的に難しい状況の中、正しいSNSの使い方を学び、ルールの範囲内で有効的に活用する方法を学校でも指導していきます。SNSについて学校と家庭とが連携し、子ども達がよりよい学校生活を送れるように協力していきましょう。

【教職員】

☐運営委員会で決定したことを他の職員に紙面で配布することで周知を図るのが今の方法ですが、結果としてあまり職員全体で共通理解が図れていなかったり、生徒会の動きや学年部間の動きについて「運営ではこう決定しているが、こうしていた方がよりよかったのでは?」という声を聞いたりします。時に、全員で協議し確認する全体連絡会があってもよいのではないかとすることがあります。

⇒働き方改革の視点から会議の精選に努めており、運営委員会でかなり練られた提案事項を事前に各学年部に伝え、全体連絡会で周知をしています。毎日放課後、運営委員会のメンバーで集まる会があるので、全体連絡会の代わりにその会を活用し、各学年部から出された意見について協議していきたいと思っています。